

令和7年度 第1回松本市都市計画策定市民会議  
議事録

日 時	令和7年7月24日(木) 14:00~15:30
場 所	松本市中央公民館 (M ウイング) 大会議室3-2
出席委員	松川寿也委員長 (長岡技術科学大学 環境社会基盤系都市計画研究室 准教授) 高山克晋委員 (松本信用金庫経営企画課兼リスク統括課長) 熊谷吉孝委員 (松本ハイランド農業協同組合 理事) 二條宏昭委員 (アルピコ交通株式会社 取締役(運輸事業本部長)) 小野和美委員 ((一社)松本市医師会 医師会広報担当理事) 降旗明生委員 ((社福)松本市社会福祉協議会 事務局次長(総務課長兼務)) 小澤考司委員 ((公社)長野県宅地建物取引業協会 理事(情報提供委員長)) 中田景文委員 (松本市町会連合会 会長) 宮澤重義委員 (松本市防災連合会 防災士部会部会長) 向山智也委員 (松本建設事務所 計画調査課企画幹兼計画調査課長)
欠 席	入江さやか副委員長 (松本大学 総合経営学部観光ホスピタリティ学科 教授) 松岡喜久子委員 (松本商工会議所 女性会会長)

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) 松本市立地適正化計画(現計画)の概要について

○説明資料に基づき、立地適正化計画策定・見直しの主な経過、現計画の概要について説明を行った。(事務局：都市計画課 高橋技師)

質疑

※質問なし

(2) 前回市民会議での意見及び対応方針について

○説明資料に基づき、令和6年度第1回松本市都市計画策定市民会議(R7.2.14)において委員から出された意見及び対応方針について説明を行った。(事務局：都市計画課 高橋技師)

質疑内容

(議長：松川委員長)

入江委員の防災指針に関するご意見の対応方針について、事前に入江委員に説明を行って、内容は共有されているか。

(事務局：都市計画課 小林係長)

入江委員には事前に説明を行い、対応方針に基づいた防災指針の反映箇所を確認していた  
だき、ご理解をいただいている。

(中田委員)

松本駅周辺ではマンション開発が行われており、マンションの分譲価格が安くなれば居住  
も誘導されやすくなるのではないかと思う。マンションを建設する際に、容積率の制限によ  
り、1世帯あたりの分譲価格が高くなっていることも考えられ、容積率を緩和することで、  
コストを下げることもできるのではないかと思う。居住の誘導を図るための施策として、イン  
センティブの検討も必要だが、容積率や高さ制限などの緩和も一つの方法として考えられ  
る。

(事務局：都市計画課 小林係長)

前回市民会議では、誘導施策のインセンティブ検討に関してご意見をいただいたため、庁  
内の関係課を集めて会議を開催し、全国的な誘導施策の事例なども共有しながら、意見集約  
を行った。現時点で誘導施策は検討中であるが、市の景観計画では山の見える景観も大事に  
していく方針を掲げており、それらの方針と整合も図りながら、インセンティブ以外の施策  
についても検討していきたい。

### (3) 松本市立地適正化計画の見直しについて

○説明資料に基づき、誘導区域及び誘導施設の見直し案、防災指針（素案）について説明  
を行った。また、当日配布資料の防災指針に関する入江委員からのコメントについて、  
説明を行った。(事務局：都市計画課 高橋技師)

### 質疑内容

(中田委員)

寿台・松原周辺エリアについて、明善小学校が避難所となっているが、小学校の体育館が  
避難所になっている例が多いと思う。明善小学校の辺りは浸水深が0.5～3.0m未満となっ  
ており、1階部分が浸水する想定だと思うが、2階以上の教室を避難スペースとして考えてい  
るのか。

(事務局：都市計画課 小林係長)

防災指針に掲載している図では、1000年に1度の想定最大規模降雨を想定した避難所を示  
している。避難所については、危機管理課で水害、土砂災害、震災などの災害種別ごとに避  
難所を指定している。実際に小学校が避難所として機能するかは被災状況にもよるが、浸水  
深を考慮すると2階以上しか避難スペースとして使えないと思われる。明善小学校の近く  
には明善中学校や内田体育館などの避難所もあるため、実際に水害が起きた際には、被災状  
況を考慮して、避難所が開設される形となる。

(宮澤委員)

建物倒壊危険度の図をみると、市中心部の東部地区で赤色の街区が多くなっており、木造家屋などが多い場所である。この危険度マップを拡大した図面を市から提供してもらい、地区住民に配布したところ、住民の皆さまが非常に興味を持っていただき、自分事として認識してもらった。実際に消防車や救急車が通れない道などもあり、危険度マップを住民へ共有していくことが重要だと感じた。既に防災指針の取組にも位置づけられているが、住民の防災意識の向上を促すための情報発信を今後も進めていただきたい。また個別の話になるが、まつもと市民芸術館の南側の第二地区では、避難する場所がないという課題も聞いているため、検討していただきたい。ハザードマップは水害を想定したものは普及しているが、地震のハザードマップはあまりなく、危険度マップは重要な情報となるため、住民にも周知していただきたい。

(事務局：都市計画課 小林係長)

市では防災都市づくり計画を策定した際に災害危険度判定調査を実施していたため、防災指針にも反映することができた。当初は国の手引きや他市町村の事例も参考にしながら、事前予測が可能な浸水、土砂災害を中心に防災指針を整理しようと考えていたが、前回の市民会議でご意見をいただき、防災指針に震災関係の情報を追加した。危険度マップなどの情報発信は、今後も継続的に実施していく。

#### 各委員からのコメント

(高山委員)

今回の会議は大変参考になる話が多かった。防災の観点から、地震などが起きた際に、松本市街地で仕事をしている方が帰宅できないような状況が発生した場合、避難所の容量が足りるのかが気になった。比較的大きいビルを拠点としている企業と協定を結ぶといったことも必要だと感じた。

(熊谷委員)

松本市街地には大きな川も多く、河床状況が悪いところもみられ、河川がしっかり整備されていないと、大雨時に大きな被害が発生するおそれもある。まだ整備が足りていない場所もあると思うので、国・県と協力しながら、河川整備を進めていただきたい。また、建物倒壊の関係について、危険度マップにも傾向がでていますが、国道 143 号沿いは倒壊しそうな建物が多い印象があるため、なんとかならないかと感じている。

(二條委員)

2021 年 8 月の大雨の際に田川が氾濫しそうになり、100 年以上の会社の歴史がある中で初めての経験であった。奈良井川の橋梁、橋脚は整備が進められ、上高地線は災害に強い路線になってきている。バスの拠点は井川城にあり、田川の横であるため、2021 年 8 月の大雨の際には、別の駐車場に移動させた。公共交通の観点から、営業所の車両置き場が低い位置にあることが課題であると感じている。

(小野委員)

今回初めて会議に参加し、誘導施設として二次・三次医療機関が設定されていることを知った。医師会では震災の話が多く、水害は今まであまり話題になっていなかったが、避難所の中でも、水に浸かる場所もあることを理解した。今年の7月に白板交差点で道路陥没が発生した際に渋滞が発生していた。今後、大雨でアンダーパスが通行不可となった際に、交通渋滞も問題になると感じた。

(向山委員)

防災上の課題と取組方針が誘導区域ごとに整理されているが、後半の具体的な取組との関係性はどのように考えているか。例えば、取組方針として「流域治水の推進」が各地区共通して記載されているが、具体的な取組の中での流域治水の内容として、内水被害の軽減の実施主体が河川管理者となっている。内水は市町村が責任を負う部分もあると思われるため、危機管理課の所管になるかもしれないが、このような記載になっている理由を教えてください。

(事務局：都市計画課 小林係長)

防災指針はまだ素案のため、関係各課に照会をかけて精査を予定している、ご指摘の点も確認して記載内容の見直しを検討したい。

(小沢委員)

不動産取引において、重要事項説明の中で、ハザードマップをもとに災害リスクの情報提供を行っている。居住誘導区域とハザードマップを見比べた時に、「浸水する場所が市中心部に多く、市街化調整区域の方が安全ではないか」という受け取られ方をされる可能性があり、バランスが難しい。情報発信は大事だが、居住を誘導したいエリアが必ずしも安全ではない側面もあるため、どのように情報発信をしていくかが課題だと感じた。松本市に移住したい方の相談も受けているが、ハザードマップについては説明を行っているが、居住誘導区域の認知はまだあまり進んでいないため、市の広報などで積極的な情報発信を行っていく必要もあると思う。

(事務局：都市計画課 小林係長)

市では35地区ごとにハザードマップを作成し、市民に配布することで災害リスクの周知を図っているが、将来の持続可能な都市づくりを考えた際に、居住誘導区域内への緩やかな誘導も必要になってくるため、今後も広報に努めていきたい。

(降旗委員)

今回初めて会議に参加し、これまでの各委員の皆さまのご意見や入江委員のコメントもいただき、よい議論ができていないのではないかと感じた。現時点の防災指針の素案も拝見したが、よく整理されており、市の関係部署や県などとの調整が進んでいけば、より良い計画になるという印象を持った。

(議長：松川委員長)

今回の会議でご意見があったが、松本市の都市機能誘導区域内では、働いている方や観光

客、外国人の方も多く、居住者以外の避難計画や安全対策も重要な視点である。防災指針の中にすべてを反映することは難しいと思うが、これから議論が必要かもしれないと感じた。また、防災指針の具体的な取組とスケジュールの中で、実施時期の目標が「継続実施」と「実施」の2種類で整理されているが、この違いを教えてほしい。水害リスクの回避に向けた取組の「浸水想定エリアに対する開発や土地利用の規制」が継続実施になっているのが気になった。

(事務局：都市計画課 小林係長)

「継続実施」は、現在も取り組んでおり、今後も継続的に実施していくもの、「実施」は、今は取り組んでいないが、これから実施を予定しているものである。各施策の実施時期については、庁内の関係課に照会をかけて精査を予定している。

#### 4 その他

(事務局：都市計画課 小林係長)

令和7年度は市民会議を2回予定しており、今回は1回目、2回目は10月頃の開催を予定している。

委員の皆さまには都度、ご意見を伺う機会を設けるかもしれないため、その際にご協力いただきたい。

#### 5 閉会

以上